



ヒロセ電機株式会社

2026 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会

2025 年 8 月 5 日

イベント概要

[企業名]	ヒロセ電機株式会社		
[企業 ID]	6806		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2026 年 3 月期第 1 四半期 決算説明会		
[決算期]	2025 年度 第 1 四半期		
[日程]	2025 年 8 月 5 日		
[時間]	10:39 – 11:47 (合計：68 分、登壇：27 分、質疑応答：41 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[登壇者]	5 名		
	代表取締役社長	鎌形 伸	(以下、鎌形)
	取締役 管理本部 本部長	松永 光生	(以下、松永)
	510 開拓室 室長 ビジネスフェロー	新井 達也	(以下、新井)
	広報・IR 室 室長	山田 理絵	(以下、山田)
	広報・IR 室	清水 秀章	(以下、清水)

登壇

山田：ただ今より、ヒロセ電機決算説明会を開催いたします。ご参加いただきありがとうございます。

弊社側は、社長の鎌形、管理本部長の松永に加え、先日の M&A に関連して 510 開拓室室長兼株式会社エス・イー・アール社長に就任した新井が出席しています。広報・IR 室からは、進行を務めます山田および清水です。今回もオンライン開催になります。よろしくお願いします。

冒頭、本会の説明をさせていただきます。本日の決算説明会資料は、ご参加の画面上のリンクから PDF ファイルをダウンロードいただきお手元でご覧ください。同様に、8 月 4 日に東証にて開示している決算短信のリンクがあります。その他の開示資料については、弊社 Web サイトの IR ページに遷移していただきご覧いただけるようになっています。

最初に、資料に基づいて、私より 26 年 3 月期第 1 四半期の決算のご説明を申し上げます。後半では、7 月 28 日に開示した、株式会社エス・イー・アールの子会社化に関して鎌形と新井よりご説明申し上げます。残り時間でご質問をお受けすることとします。

業績サマリー （2025年度 第1四半期 2025年4月～6月）

一般産機市場向けは回復感が高まり、コンシューマ・モバイル機器市場向け、スマートフォン市場向けは良好、自動車・モビリティ関連向けは堅調に推移し、全体での売上は前年同期比+9.1%であったものの、営業利益は-4.2%となりました。営業利益率は20.1%でした。受注は前年同期比 +7.3%、前四半期比 +8.9%となっております。

(金額：億円)

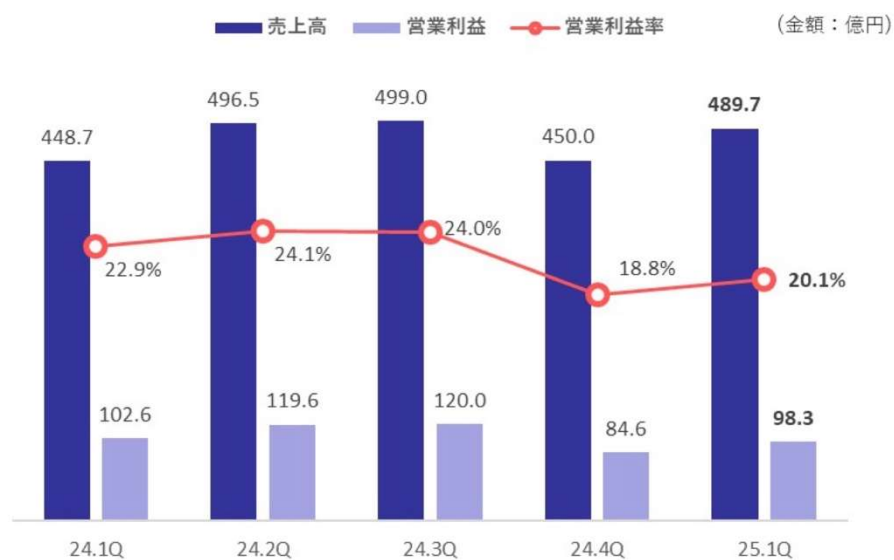
	2024年度1Q (2024.4-6月)	2024年度4Q (2025.1-3月)	2025年度1Q (2025.4-6月)	前年同期比 (2025.1Q/2024.1Q)	前四半期比 (2025.1Q/2024.4Q)
受注	484.8	477.4	520.1	+7.3%	+8.9%
売上	448.7	450.0	489.7	+9.1%	+8.8%
営業利益	102.6	84.6	98.3	-4.2%	+16.2%
営業利益率	22.9%	18.8%	20.1%	-2.8pt	+1.3pt

それでは、決算説明会資料の3ページからお願いします。

業績サマリーです。2025年度第1四半期が、一般産機市場向けは回復感が高まり、コンシューマ・モバイル機器市場向け、スマートフォン市場向けは良好、自動車・モビリティ関連向けは堅調に推移し、売上は前年同期比プラス9.1%となりました。

一方で、営業利益はマイナス4.2%という結果です。営業利益率は20.1%でした。第1クォーターの受注は、前年同期比プラス7.3%の520.1億円、前四半期比プラス8.9%となっています。

売上・営業利益推移 (2024年度1Q～2025年度1Q / ヒロセ連結ベース)



© 2025 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

4

四半期ごとの売上、利益の推移グラフです。25年度第1四半期は、売上489.7億円、営業利益98.3億円、営業利益率は20.1%と、売上高は成長しましたが、それに比べると営業利益に物足りなさが感じられる結果といえます。

2025年度 第1四半期 連結決算概要

	2024年度1Q (2024/6月期)	2025年度1Q (2025/6月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)	(金額：億円)	
売上高	448.7	489.7	+41.0	+9.1%		
売上原価率	55.0%	57.6%	+2.6			
販売・管理費比率	22.3%	22.3%	0.0			
営業利益	102.6	98.3	-4.3	-4.2%		
営業利益率	22.9%	20.1%	-2.8			
税引前利益	118.4	102.4	-16.0	-13.5%		
税引前利益率	26.4%	20.9%	-5.5			
当期利益	84.0	72.3	-11.7	-14.0%		
当期利益率	18.7%	14.8%	-3.9			
自己資本比率	89.5%	89.0%			2024年度1Q累計	2025年度1Q累計
1株当たり 当期利益	248.41円	213.58円			1US\$	155.88円 144.59円
					1€	167.88円 163.80円
					100ウォン	11.38円 10.34円

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

5

決算概要です。繰り返し部分もありますが、2025 年度第 1 四半期の売上は 489.7 億円、前年同期比がプラス 9.1%、営業利益は 98.3 億円、前年同期比マイナス 4.2%、営業利益率は 20.1%、税引前利益が 102.4 億円、当期利益が 72.3 億円、自己資本比率は 89%、1 株当たり当期利益は 213.58 円という結果でした。

為替の実績は、ドル 144.59 円、ユーロ 163.80 円、100 ウォン 10.34 円という結果で、前年同期比較で主要通貨全てにおいて円高となり、こちらは減益の主要因となりました。

具体的なインパクトについては、後の変動分析のスライドでご説明します。

2025年度 第1四半期 対前年同期主要増減

売上高

41.0 億円 増加 (448.7億円 → 489.7億円)

一般産機	: +30億円
スマートフォン・携帯端末	: + 5億円
コンシューマ・モバイル機器	: + 2億円
自動車・モビリティ関連	: + 4億円

売上原価率

2.6 pt 悪化 (55.0% → 57.6%)

変動費率	: 37.6% → 40.8%
減価償却費率	: 8.1% → 7.9%
労務費率	: 7.8% → 7.8%

販売・管理費比率

横ばい (22.3% → 22.3%)

100.1億円 → 109.3億円 (+9.2億円)

金融収益・費用

11.8億円 減少 (+15.8億円 → +4.0億円)

為替差損益	: +3.2億円 → -6.5億円
受取利息等	: +8.2億円 → +7.8億円

対前年同期の主要増減をまとめています。売上増 41 億円のうち、一般産機向けがプラス 30 億円、スマートフォン・携帯端末向けがプラス 5 億円、コンシューマ・モバイル機器向けがプラス 2 億円、自動車・モビリティ関連がプラス 4 億円でした。

売上原価率は、昨年の 55% から 2.6 ポイント悪化し、57.6% としています。主なところでは、変動比率が 37.6% から 40.8% となっており、原材料費の上昇の影響等を受けた結果です。

今年度は、売上原価率が上昇する計画であり、厳しい局面ではありますが、産機市場の在庫調整が収束に向かい、生産が上がってくると原価率も次第に落ち着いてくると考えています。

販管費は、人件費の増加などで 100.1 億円から 109.3 億円と 9.2 億円増加しましたが、率としては横ばいの 22.3% という結果でした。

金融収支は、為替差損益としてプラス 3.2 億円だったものが、円高の影響によりマイナス 6.5 億円、受取利息は若干減少し、合計で 11.8 億円の減少という結果でした。

2025年度 第1四半期 対前年同期 変動分析

(金額：億円)

	売上	営業利益	営業利益率	税前利益	税前利益率
2024年度 1Q 実績	448.7	102.6	22.9%	118.4	26.4%
為替影響	-26.5	-13.6		-24.0	
人件費増		-11.5		-11.5	
減価償却費増		-2.5		-2.5	
物量増他	67.5	23.3		22.0	
変動額計	41.0	-4.3		-16.0	
2025年度 1Q 実績	489.7	98.3	20.1%	102.4	20.9%

対前年度比の変動分析です。為替の影響は、売上ではマイナス 26.5 億円、営業利益ではマイナス 13.6 億円でした。

人件費増がマイナス 11.5 億円、減価償却費増がマイナス 2.5 億円ありながらも、物量増他でプラス 23.3 億円となりました。

営業利益は、マイナス 4.3 億円の 98.3 億円という結果でした。

連結貸借対照表（１）

					(金額：億円)
	科目	2025/3末	2026/6末	増減額	備考
資 産	現金及び 現金同等物	856.7	817.7	-39.0	当期税前利益 +102 設備投資(建物等含む)△52 配当支払 △83、法人税等納付 △59
	営業債権及び その他の債権	403.9	447.0	+43.1	売上増加
	棚卸資産	250.9	254.2	+3.3	
	その他金融資産	1,513.7	1,565.1	+51.4	有価証券 + 36、定期預金増 + 15
	有形固定資産	863.8	882.4	+18.6	生産設備増
	使用権資産	49.4	47.9	-1.5	
	その他	230.2	190.4	-39.8	未収消費税還付
	合計	4,168.7	4,204.7	+36.0	
現預金合計		1,604.5	1,580.6	-23.9	

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

B/S 資産の部です。売上増による売掛金の増加があるものの、現金のところは建物含む設備投資、配当支払と法人税の納付等により減っています。

棚卸資産は若干増加していますが、為替を除くとほぼ横ばいとなっています。有形固定資産は、生産設備の増強のためプラス 18.6 億円の増加となりました。

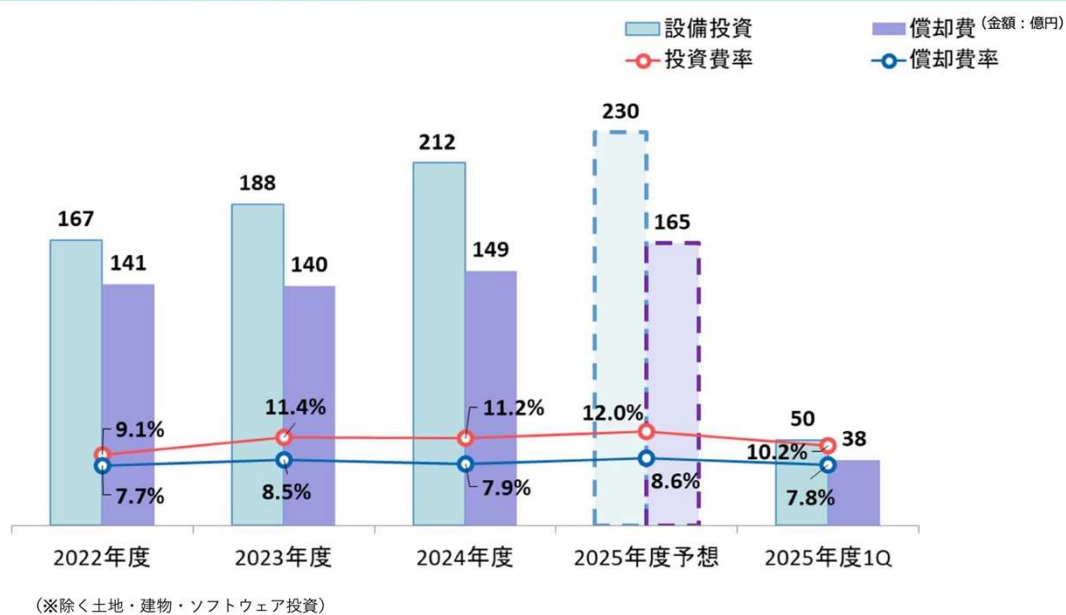
連結貸借対照表（２）

					(金額：億円)
	科目	2025/3末	2025/6末	増減額	備考
負債	支払債務及び その他の債務	129.0	155.1	+26.1	仕入増による買掛金増
	リース負債	52.0	50.4	-1.6	
	未払法人税	81.4	46.5	-34.9	国内法人税納付
	その他	204.8	211.2	+6.4	
	合計	467.2	463.2	-4.0	
純資産	資本金及び 資本剰余金	206.3	206.9	+0.6	
	利益剰余金	3,489.7	3,479.1	-10.6	当期純利益+72、配当金支払△83
	自己株式	-274.6	-274.6	-0.0	
	その他	280.1	330.1	+50.0	為替換算調整(KRW高等による)+44
	合計	3,701.5	3,741.5	+40.0	
負債及び純資産合計		4,168.7	4,204.7	+36.0	

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

負債と純資産の部です。売上は堅調であることから、生産・仕入増による買掛金増加で支払債務はプラス 26.1 億円、その他円高影響による為替換算調整としてプラス 50 億円が入っています。

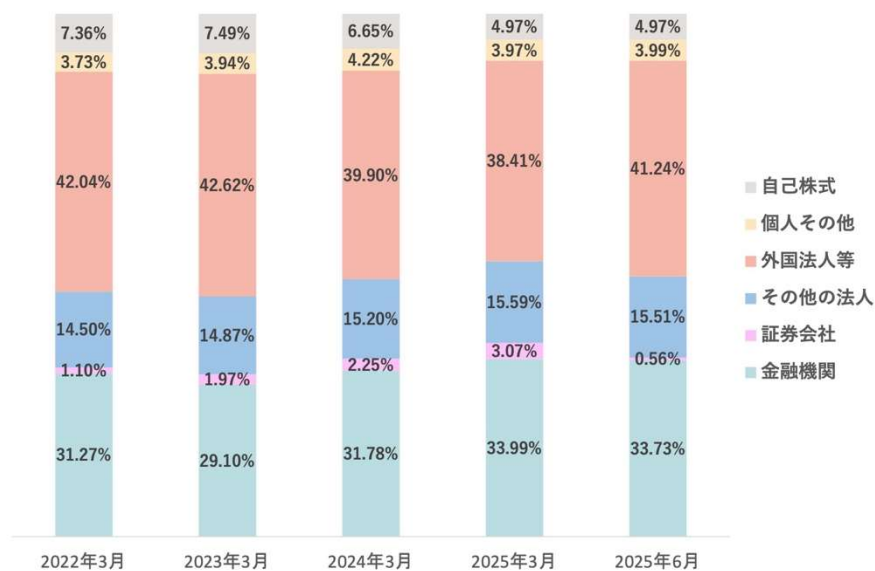
設備投資・償却費 推移(連結ベース)



設備投資と償却費の推移です。25年度第1四半期の設備投資額は50億円、償却は38億円でした。

25年度予想に変更はありません。資料に記載はありませんが、第1四半期の研究開発費は33億円という実績でした。研究開発費の25年度予想140億円にも変更ありません。

株式分布推移



© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

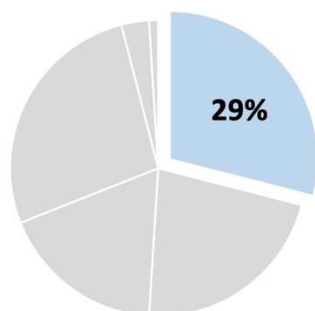
株式分布推移です。外国法人が若干増え、証券会社が減っています。

分野別売上 一般産機

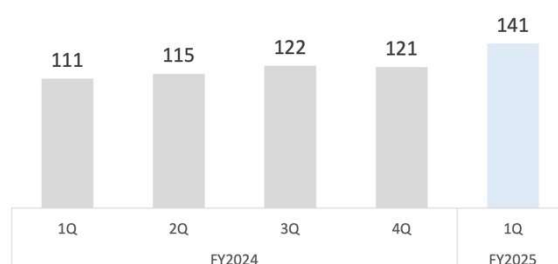
(金額：億円)

	2024年度		2025年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	111	121	141	+27%	+17%

● 2025年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 在庫の解消がさらに進んだと見られ売上に反映。

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

ここからは、分野別の結果です。

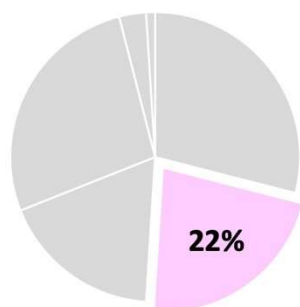
最初は、一般産機向けの売上推移です。25年度第一四半期の売上は141億円、前年同期比ではプラス27%、前四半期からはプラス17%と、売上の回復がより高まっていますが、客先在庫の解消がさらに進んだ結果という見方をしています。

分野別売上 スマートフォン・携帯端末

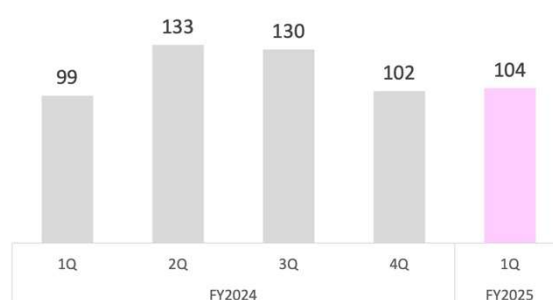
(金額：億円)

	2024年度		2025年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	99	102	104	+5%	+2%

● 2025年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 想定内の良好な立ち上がりであった。

© 2025 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

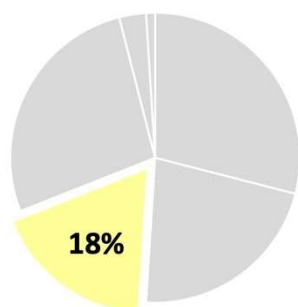
スマートフォン・携帯端末向けです。25年度第1四半期の売上は104億円、前年同期比プラス5%という実績です。好調な立ち上がりではありますが、想定の範囲内といったところです。

分野別売上 コンシューマ・モバイル機器

(金額：億円)

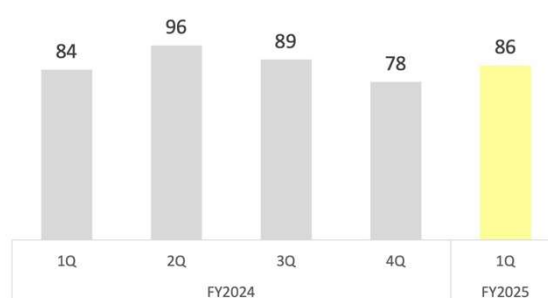
	2024年度		2025年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	84	78	86	+2%	+10%

● 2025年度 累計 構成比



■ 底堅いスタートとなった

● 四半期別売上推移



© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

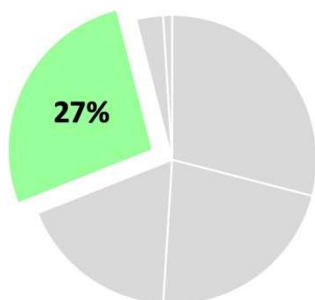
コンシューマ・モバイル機器向けです。売上は 86 億円で、前年同期比プラス 2%という結果で底堅いスタートといえるかと思います。

分野別売上 自動車・モビリティ関連

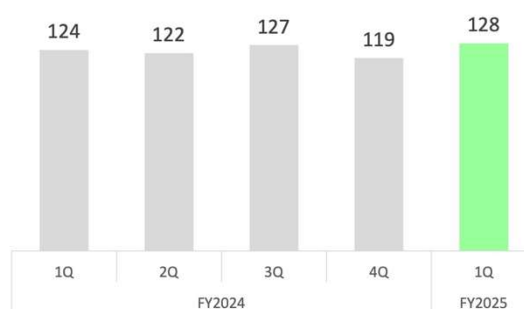
(金額：億円)

	2024年度		2025年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
売上高	124	119	128	+3%	+8%

● 2025年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



■ 25年度+7%成長予想に対し堅調な結果であった。

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

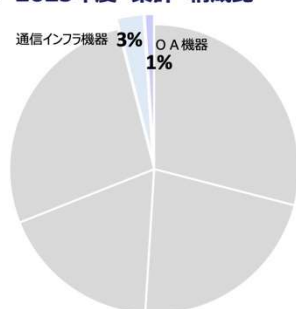
自動車・モビリティ関連向けです。第1四半期売上は128億円、前年同期比プラス3%、前四半期比でプラス8%でした。今期はプラス7%成長と予想していますが、インラインの堅調な結果といえるかと思います。

分野別売上 通信インフラ機器 / OA機器

(金額：億円)

	2024年度		2025年度	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q		
通信インフラ機器	13	14	13	±0%	-7%
OA機器（事務機）	4	4	5	+25%	+25%

● 2025年度 累計 構成比



● 四半期別売上推移



© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

通信インフラ機器向けと事務機器向けの売上実績推移です。こちらは、特にコメントすることはありません。

2025年度 業績予想（連結）

2025.5 公表値から変更ありません								
(金額/億円)								
	2024年度 (2025/3月期) 実績		2025年度 (2026/3月期) 予想		第2四半期累計 対前年実績		通期 対前年実績	
	第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	945.2	1,894.2	955.0	1,910.0	+9.8	+1.0%	+15.8	+0.8%
売上原価率	54.7%	54.9%	57.1%	57.6%				
営業利益	222.2	426.7	195.0	385.0	-27.2	-12.2%	-41.7	-9.8%
(%)	23.5%	22.5%	20.4%	20.2%				
税前利益	238.5	462.2	200.0	400.0	-38.5	-16.1%	-62.2	-13.5%
(%)	25.2%	24.4%	20.9%	20.9%				
当期利益	175.3	330.3	140.0	280.0	-35.3	-20.1%	-50.3	-15.2%
(%)	18.5%	17.4%	14.7%	14.7%				
一株当たり 当期利益	—	976.37円	—	827.53円	【為替レート】			
一株当たり配当	245円	490円	245円	490円	1US\$	152.58円	2025年度予想	138.00円
連結配当性向	—	50.2%	—	59.2%	1 €	163.75円		155.00円
					100ウオン	10.97円		9.80円

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

これらを受け、25年度の業績予想です。売上の進捗は強いものの、まだ第1四半期ということで、現時点では据え置きとしています。

株主還元 自己株式の取得

2025年5月発表

2025年度～2028年度の4年間に600億円を上限とした自己株式を取得する方針を決定

株主還元の充実及び、資本効率の向上を図るとともに、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の一つとして、自己株式の取得を行うものであります。

取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	1,050,000株（上限） （発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 3.10％）
株式の取得価額の総額	15,000,000,000円（上限）
取得する期間	2025年8月5日から2026年3月31日
取得方法	東京証券取引所における市場買付

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

18

昨日決議しました、自己株式の取得についてです。5月に2025年度から2028年度の4年間に600億円を上限とした自己株式を取得する方針を決定したことをお伝えしていますが、うち150億円、もしくは105万株を上限に8月5日から自己株の取得を実施します。株主還元の充実化と資本効率の向上をねらったものです。

以上が業績に関するご説明でした。

ここからは、7月28日に公表した、株式会社エス・イー・アールの全株式の取得、子会社化に関して社長の鎌形とSERの社長に就任したヒロセ電機510開拓室室長の新井よりご説明します。

鎌形社長からお願いします。

鎌形：お世話になっております。社長の鎌形です。先ほど山田より業績の説明を申し上げましたが、少し補足させていただきたいと思います。

スマートフォン、この分野は第1クォーターのBBレシオとしては1.08で、シーズナリティ、1Qは例年低めにスタートしますので、そういう意味では2Q、3Qに期待しているところです。市場的には、北米のフラッグシップモデルが伸びていますが、中国エリアの売上が計画ほどではなく、プラスマイナスして今回はこのような伸びです。

コンシューマ・モバイルは、BB レシオ 1.02 として、こちら受注が勝っていますが、中身で一番伸びているのはモバイル PC 系で、ここは 2 桁の成長です。

自動車は、BB レシオ 1.09 ほどで、主に EV および ADAS の領域で堅調に成長しています。市場としては、コリア市場向けが計画より伸びている感じがあり、一方でそれ以外は少し様子見のところがありますが、総じてここは計画を上回る伸長になっています。

産機は、全体的には昨年に比べ回復の色が濃く出ていることを感じているところです。ヒロセの場合は、代理店が 5 割、直販が 5 割程度で、両方とも、どちらに偏っているというわけではありません。

ただ、顧客ごとに濃淡があります。各社、サプライチェーン上の在庫の整理が結構進んできたことを受けているところもあり、フォーキャストに基づいてしっかりと回復してきているところもあり、そこはまだ受注に向けてしっかりと継続ウォッチしていこうというかたちです。ちなみに、産機の BB レシオは 1.05 で、ここも受注が勝っています。

かたや利益は、この産機のところから伸びていくことを想定しますと、さまざまに今まで動いていなかったものを動かすために先行しての準備があり、その部分がちょっとかかっているところがあります。この稼働率がしっかり上がってくれば、利益に貢献するのではないかなと思っています。

同時に、原材料高および人件費もしっかりと適正な値上げをしていくことを意識していますので、それに対応するべくお客様への適正な売価の値上げを計画しているとともに、社内のさまざまなプロセスでの業務効率を 25 年度の経営課題として掲げており、ここは順調にっています。

今回、2025 年度の自己株式取得を発表しましたが、資本効率の改善は継続課題と捉えており、社内で議論していく所存です。



20

詳細は新井から報告します。

1. 半導体市場は、長期的に成長が加速していく市場。
2. 半導体は社会進化を牽引する重要部品であり、本ビジネスへの参入により、技術進化や市場動向をより早く把握し、先行・先端・差異化ソリューション提案力を強化。
3. プローブは高周波特性・耐久性に優れた接点であり、半導体検査のみならず、当社が目指す高性能コネクタへの応用に期待。

つなぐビジネスの強化で、長期的に成長する企業であり続ける

© 2025 HOROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

21

新井：510 開拓室の新井です。今回のエス・イー・アールの子会社化を担当しました。また、このたびエス・イー・アール社の社長に就任しました。

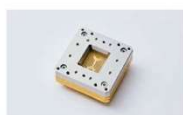
今回の半導体検査関連事業への参入の意義に関してご説明します。まず1番目、市場として、半導体市場は長期的に成長が加速していく市場です。

2番目に、半導体は社会進化をけん引する重要部品であるため、本ビジネスへの参入によって技術進化や市場動向をより早く把握し、ヒロセグループとして先行、先端、差異化ソリューション提案力を強化していくねらいがあります。

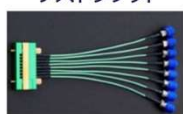
3番目に、今回買収した会社が提供するプローブという部品は、非常に高周波特性に優れていて、耐久性に優れた電気接点で、同社が提供する半導体検査部品のみならず、ヒロセグループが目指す高性能コネクタへの応用も期待できることです。

これによって、つなぐビジネスをさらに強化し、長期的に成長する企業であり続けることが、今回の意義です。

(株) エス・イー・アール

<https://www.ser.co.jp/>

テストソケット



多極同軸コネクタ

会社概要	
所在地	東京都品川区
事業内容	検査用ソケット・プローブの製造販売
設立	1984年
略歴	ソケット・コネクタ販売をメインに設立

九戸精密 (株)
(エス・イー・アールの100%子会社)<https://kunoheseimitsu.co.jp/>

プローブ



切削加工

会社概要	
所在地	・岩手県九戸郡 ・岩手県盛岡市
事業内容	プローブの製造販売、金属加工
設立	1978年
略歴	旧シチズンファインデバイスグループ

➡ SERは、高密度化・高速化が進む半導体のテストに不可欠なソケット、超小型プローブに強み
半導体検査業界の国内外リーディング企業にその技術を提供 ➡

© 2025 HORISE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

22

簡単に、このエス・イー・アール社とその子会社である九戸精密に関してご紹介します。左側、エス・イー・アール社は、所在地が東京都品川区です。同社が提供しているのは、半導体検査用ソケット、それからプローブの製造、販売で、設立は1984年です。

左の写真は、上が半導体のテストソケット、下側が多極同軸コネクタで、その辺りはヒロセ電機との親和性も非常に高いと思っています。

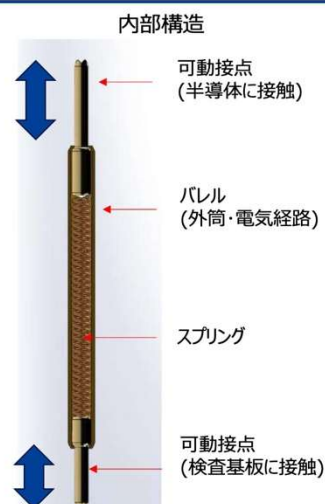
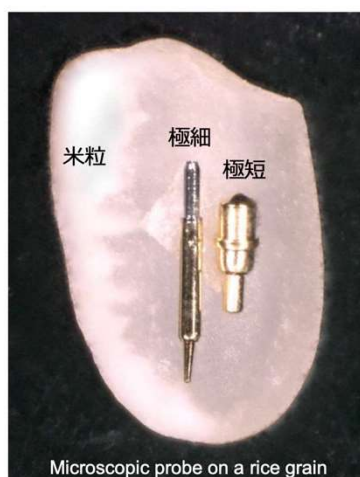
右側、九戸精密です。この会社は、2017年にエス・イー・アール社の100%子会社になりました。それまでは、こちらにプローブの写真がありますが、エス・イー・アール社にプローブを提供していたサプライヤーであったわけです。

もともと、この会社はシチズンファインデバイスグループの系列会社で、シチズンさんがその事業を離れるときに、エス・イー・アール社が買収した経緯があります。

この会社の所在地は、本社が岩手県の九戸村で、岩手県盛岡市にも盛岡工場があります。この会社はシチズンさんの会社であったわけで、時計産業にかかわる非常に微細な加工技術を持った会社であり、その技術を使って微細なプローブの製造、またはプローブの下の写真にある切削加工の仕事をしています。

エス・イー・アール社は、高密度化、高速化が進む半導体のテストに不可欠なソケット、超小型プローブに強みがあります。実際に、半導体検査業界の国内外のリーディング企業に、その技術、製品を提供している会社です。

SERが提供する、世界最先端の超小型プローブの例



小さく、電気特性に優れ、耐久性があり、安定した品質で大量生産できることが、半導体開発立上げスピードを早め、検査精度を高め、顧客の利益に貢献

© 2025 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

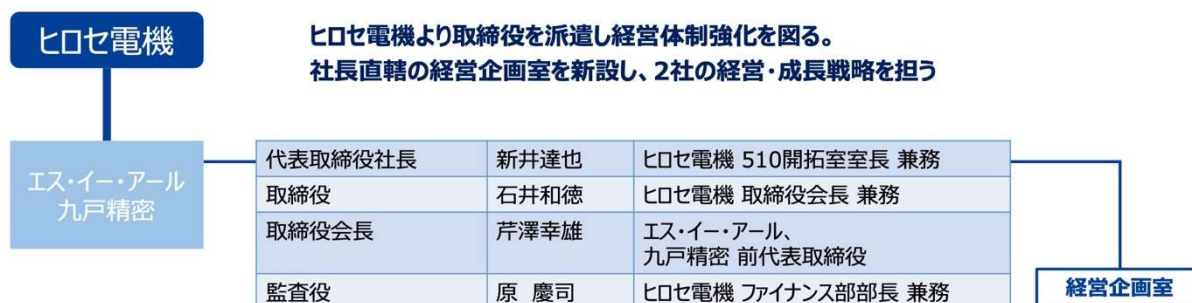
23

この会社が提供している世界最先端の超小型プローブの例です。左の白い影が米粒で、米粒の上に二つプローブが載っていますが、真ん中が極細、その右側が極短とあって、非常に短いものです。

これは、中身を見ますと、この右側のイラスト、これは単なる棒ではなく、筒の中にばねが入っていて、上と下にある接点が摺動することにより、接触力と電気を通じさせるものになっており、非常に細かい部品でありながら、接続を確実にするものです。

こういう部品を使い、半導体の検査、つまり上に半導体が出て、下に検査用の基板があり、電氣的につなぐ機能を持っているものです。

小さくて電気特性に優れて耐久性がある、しかもそれを安定した品質で大量に生産できるのが、半導体開発、立上げスピードを速め、検査精度を高め、お客様の利益に貢献するというものです。



▶▶ **HRS/SER両社の強みを最大限に活かし事業拡大と技術革新を加速
高品質かつ高付加価値なソリューションを提供してまいります** ▶▶

© 2025 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

24

子会社の役員体制です。ヒロセ電機の独立子会社になりましたエス・イー・アール、さらに九戸精密は孫会社になるわけです。

代表取締役社長として私が就任しました。そして、取締役がもう1名、石井和徳はヒロセ電機取締役会長を兼務しています。それから、取締役会長として、前エス・イー・アールの代表取締役である芹澤が就任しています。また、監査役として、ヒロセ電機ファイナンス部部長の原が兼務で就任しました。

また、ヒロセ電機の510開拓室にいたメンバーが、経営企画室として経営に参画し、この会社の成長を支援する体制で進めてまいります。

ヒロセ電機とエス・イー・アール社、両社の強みを最大限に活かし、事業拡大と技術革新を加速し、高品質かつ高付加価値なソリューションを提供してまいります。

以上です。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。